

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社 興和工業所
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	〒467-0861 名古屋市瑞穂区二野町2番28号
工場等の名称	株式会社 興和工業所 名古屋工場
工場等の所在地	名古屋市瑞穂区二野町7番地21号
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	溶融亜鉛めっき
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

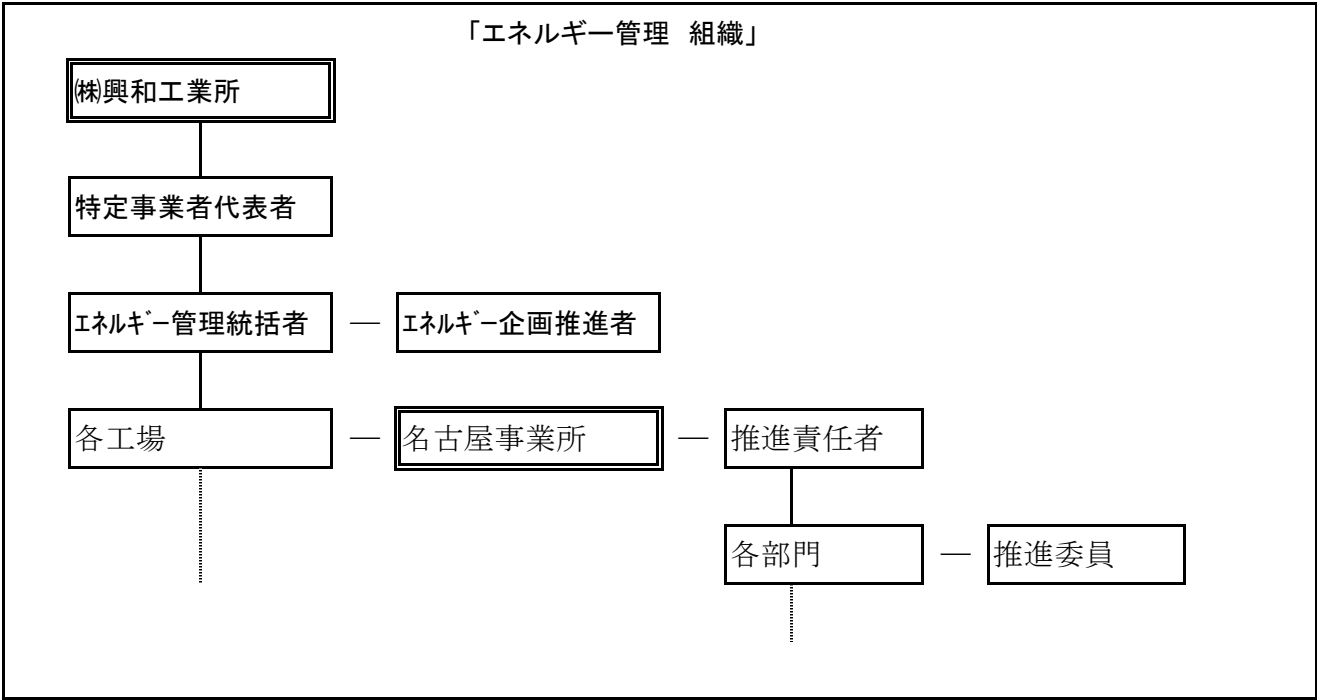
公表期間	令和6年5月16日 ～ 令和6年8月14日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 名古屋西工場 事務所の窓口
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	（株）興和工業所 名古屋工場 ☎052-871-4721 都築		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当事業所は名古屋市の地球温暖化対策にかかる計画が、私たちの地球環境を守るうえで大変重要なものであると考えます。また、弊社企業理念にあります「環境への配慮」「地域への貢献」の考えとも一致しております。当事業所の全従業員へ啓発活動を通して、『省エネルギー』『省資源』『3R』への一層の取り組みを図ってまいります。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3, 175	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガス 素換排 出量 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	3, 175	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂			t-CO ₂
削減率（対 基準年度）				%		%		%	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
原単位あたりの 排 出 量	163.9	kg-CO ₂ / t	159	kg-CO ₂ / t	155.7	kg-CO ₂ / t	139	kg-CO ₂ / t	kg-CO ₂ / t
削減率（対 基準年度）			3.0	%	5.0	%	15.2	%	%
原単位あたりの みなし排出量						kg-CO ₂ / t		kg-CO ₂ / t	kg-CO ₂ / t
削減率（対 基準年度）						%		%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

溶融亜鉛めっきは稼働外も保温の為、ガスを使用している。受注が多い月は昼夜勤体制に変更することで保温でのエネルギーロスを削減し、効率的な生産を行うことが出来た。ボイラーの稼働時間をタイムスケジュールによって細かく管理して、無駄な稼働時間を削減した。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
コンプレッサーについて	・エアー漏れを無くし無駄な電力を削減 ・無駄なエアーの低減	・消費電力の削減	・各現場にてエアー漏れチェックをする事で、エアー漏れがあった場合にすぐ修理を行っている。 12ヵ所改善。
冷房について	・冷暖房温度の適正化 ・カーテンやブラインドを活用し冷暖房の効果を高める ・冷暖房時間の短縮	・GHPエアコンのガス使用量削減	・設定温度 夏26度・冬24度 ・消し忘れ防止の為のタイマー設置 ・温度計を設置し啓発
照明について	・昼休み等に不必要な照明を消す ・器具の省エネタイプへの変更 ・在籍中のみ使用する ・人感センサー・小電力機器への交換 ・水銀灯製造中止によるLED照明への交換	・消費電力の削減	・終業後のチェック ・メタハラ(200W)53個をLED(100W)に変更 100W×53個×20hr×20日＝2120kWh/月削減 ・自動消灯設置
機械設備について	・設備更新時に省エネタイプを採用する	・消費電力の削減	新規設備更新なし
生産工程について	生産工程の見直し、改善を行う	・生産効率の向上	・生産性の良い工具の作成 ・不良率を削減し、ロスをなくす
燃焼について	・適正な酸素濃度に調整 ・蒸気ボイラーの圧力調整 ・配管保温	・ガス使用量の低減	・バーナの燃焼装置点検 ・熱交換器への適切圧力調整 ・ボイラーの稼働時間の削減
冷却・洗浄水について	・適切な水量に調整	・水の使用量の低減	・省エネバルブに交換 ・めっき冷却水及びスクラバ循環水の前処理水洗槽への再利用
廃棄物について	・廃棄物の分別回収 ・廃棄物の量の低減 ・紙類のリサイクル	・廃棄量の低減	・分別回収(空缶は業者回収) ・廃硫酸から亜鉛を回収し、亜鉛と硫酸を再利用 ・書類、段ボールリサイクル ・廃塩酸を予備処理槽へ再利用

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--